

日本経済新聞

発行所 日本経済新聞社

文化

に伝えたい。成田空港に到着した瞬間、凜然と抱いた思いは、いつまでも消えることがなかった。そして、中国での放送を目指し、四年間かけて「私たちの留学生活〜日本での日々〜」と題した十本のドキュメンタリーを制作したのである。

★ ★ ★
★ ★ ★
★ ★ ★
★ ★ ★
★ ★ ★

〇生活の傍ら挑戦
私自身は九五年に、東京学芸大学大学院を卒業し、商社の大倉商事に入社。〇し生活で生活の基盤が固ま

一九八九年の夏、二十二歳の私は成田空港に降り立った。「あいうえお」も分からないまま、自費留学生としての来日だった。空港には私と同じように中国から来た人がたくさんいた。大きな荷物を抱え、興奮と不安の入り交じった表情をしていた。彼らの日本での暮らしは、中国にほとんど伝わっていない。だが、私にとってこの光景は歴史の貴重な一場面のように感じた。



ドキュメンタリー「私たちの留学生活」のひとつ

した。九五年十二月のことだった。「制作にかかる費用は、中国にいる親類・友人から借り、一生かけて返済する覚悟です。横山さんはそう言う私に意気を感じてくれ、さ

休みをロケにあてた。休日最低でも十七時間は撮影した。少しでも出費を抑えたかったからだ。当初の移動手段は電車だ。重い機材に耐えかね、廃車寸前のパンを安く買ったが、クーラーもなく、夏は汗だくだった。私はプロデューサー、ディレクター、ナレーターを兼務し、睡眠時間を削って制作に没頭していた。

一年後、ロケ現場に横山さんが訪ねてきた。そこで北京出身の李さんは、大学院で博士學位論文に取り組む四十五歳。日本での勉強を通じて国のために尽くしたいという夢を持っている。奥さんがアルバイトで家計を支えてきたが、李さんは奥さんに内証で投資し、詐欺事件に巻き込まれてしまふ。浙江省の王さんは十九歳の女性。心細さから泣きながら日本に来たが、たくましく自立し、ついに念願の国立大学に合格した……。

取材対象は知人に紹介してもらったりしながら探した。王さんのように成田空港に到着したばかりのところを、初対面でマイクを向け、以後二年間にわたって取材したケースもある。撮影テープは千本を超えた。九七年夏、放送してくれるテレビ局を見つけた。テープを持って中国へ向かった。飛び込みでテレビ局を回り、北京テレビにお願いすることになった。



張麗玲

日本留学 夢追う中国人

◇同胞の奮闘ぶり、ドキュメンタリー映像に◇

まさな助言をしてくださいました。また、やはり留学生で十年の友人、張煥琦さんもスタッフに加わった。

TV局スタッフの厚意仕事を終えた平日の夜と

彼をまた驚かせてしまふ。「これはドキュメンタリーじゃない」。インタビュを単に撮影してただけで、彼らの思いに全く肉薄していなかったのだ。その後、横山さんのドキュメン

「初め日本人が好きにならなかつた」「私たちに今、何が大切なのか。どう生きたらいいのか。この番組が教えてくれた」という人も多い。企画をスタートした時、放送のメドは全くなかつた。私には会社の名刺一枚しかなかった。それでも信頼し、快く取材に応じてくれた在日留学生たち、支援してくれた会社や日本人の皆さんに感謝は尽きない。

CS(通信衛星)放送チャンネルの社長に就任、そして大倉商事の倒産。この番組を制作している過程で、予期せぬ劇的な出来事を私自身も経験した。

日本での放送も現在検討されている。このドキュメンタリーが、新しい時代を迎えた日本と中国の懸け橋になってくれたらうれしい。(ちよう・れいれい C C T V 大倉社長)